【宮城県】

宮城県農業高等学校

農業経営者クラブ
八巻周平

私達のクラブは

高校生ボランティア・アワード2023

5つの“め”で 域活性化プロジェクト

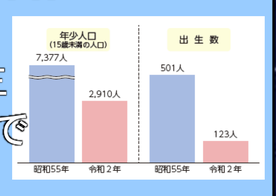
私達は自分達の目的の為に商品開発しています。テツ＆トモさんも来てくれたこともあるんですよ。

我が町角田市

宮城県南部に位置し仙台よりも福島県の方が近く、自然豊かな場所で私は育ちました。父は角田で100haを超える農業法人を営んでいます。主に米と大豆栽培を行い、町の農業基盤を支えてきました。将来は父の仕事を引き継ぎたいと考え、宮城県農業高等学校に入学したのです。学校に入学してから自らの町を調べると人口減少、高齢化など深刻な状況を目の当たりにしました。このままではいけない。なんとか微力でも町の為に動き出したいと活動を始めました。

深刻な少子高齢化

年少人口は減り続け、現在3000人を割り込みました。出生率も年間100名です。このままでは10年後に1500人以下になるでしょう。



角田の5“め”を発見

角田市の魅力を調べると「5め」というものを知りました。「梅、米、豆、姫、夢」と名産や文化はたまた産業まで角田市の主力産業には必ず「め」という言葉が付き、それを総称して5“め”と呼んでいたのです。この特産物を使い町を活気づけようと考えました。更に角田市では毎年美しい阿武隈川を走り抜ける「リバーサイドマラソン」が開催されます。走り終わった後に腹ごしらえとして角田の魅力が詰まった「おむすび」を開発しようと考えました。何故、おむすびか？これは人と人を「お結び」したという強い思いを込めたからです。更に将来的には宇宙食として宇宙に飛び出して欲しいからこそ、簡単に食べられるおむすびを選択しました。

梅（うめ）

角田では40軒の農家が梅干しや梅酒などの加工用として毎年60トン以上の梅の実を栽培しています。梅まつりが毎年開催されます。商品開発では梅の酸味と食感をふんだんに取り入れました。

米（こめ）

角田で最も農産物の販売量が多いのが米です。阿武隈川の良質な水から作られる米は角田の主力産業でもあります。商品化において最もこだわりました。品種は「だて正夢」を使います。

豆（まめ）

角田で作られる秘伝豆は甘さ、香り、実の張り、大きさ、味わいがどれも素晴らしいという意味で名付けられています。商品開発では食感を残すために、大きめに入れます。

そら結び

夢（ゆめ）

JAXA角田宇宙センターや台山公園のスペースタワー・コスモハウスなどをシンボルとする宇宙に関する夢が沢山あります。将来、商品を宇宙食として開発を進めます。

姫（ひめ）

伊達政宗公の次女（五郎八姫の妹）で石川公に嫁いだ牟宇姫が角田市のシンボルになっています。ゆかりの地をめぐる約4kmの観光ウォーキングコースもあり、市民から愛されています。

そら結びの作り方

材料

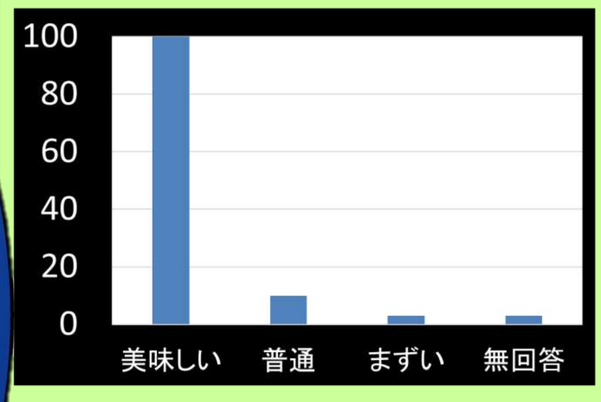
①
- だて正夢（米）
- ショウガ
- 塩、ごま油
- 菊芋
- ゴマ、紫蘇

- 秘伝（豆）
- 梅
- 海苔

①の材料を炊飯器に入れて炊き上げる。秘伝は触感を活かすために、フライパンで焦げ目をつける。梅は風味を活かす為にご飯が冷えてから加える。ご飯の粒潰さないように軽く握る。海苔で着物の様にくるみ完成。香り、食感、味、旨味を最大限引き出しました。

試食の感想

食べて頂くと香りと食感に始めは驚いくれます。その後旨味を噛みしめてもらえます。試食アンケートを行うとほとんどの人が美味いと回答し、商品として販売して十分にお金がとれると言って頂きました。食材にこだわっていますが、全てが地元産の為、安価に手入ります。今年はリバーサイドマラソンがコロナ後に普通開催になるために、ランナーへの配布にむけて話を進めています。



「編集後記」

少子高齢化であっても、角田市には歴史と伝統があります。何もしなければ失われますが、アクションを起こせば必ず誰かが助けてくれることを学びました。「そら結び」を地元の方に広め、いずれば宇宙食としての採用を目標にしています。高校生が開発しものが宇宙に行くなんて誰も思いません。しかし、地元で頑張れば夢みたいなことが実現できます。現在、私の活動を多くの方が見てくれています。ボランティアは人の為に動いていましたが、いずれ自分に返ってくると感じました。